

マルコの福音書 6章1-6節 親しさゆえの不信仰

よく使われる英語の言い回しに、私がこの説教のタイトルに選んだ "familiarity breeds contempt" (親しみやすさは軽蔑を生む) というものがあります。今日の箇所が出来事では、イエスは彼のこれまでの生涯を最もよく知る人々が、イエスをメシアとして見なす事と彼の宣教に対して最も懐疑的であるという事実を経験します。今日からマルコの福音書6章を始めますが、1節から6節まで、イエスの宣教に対するこの否定的な反応を見ます。私たちはこの箇所を読み進みながら、どの町について語られているのかを知る必要があります。マタイによる福音書では、イエスはナザレという街で育ったと伝えられています。

マタイの福音書 2章23節23 **そして、ナザレという町に行き住んだ。これは預言者たちを通して「彼はナザレ人と呼ばれる」と語られたことが成就するためであった。**

スクリーン 画面を見ていただくと、ティベリア海とも呼ばれる、ガリラヤ海のほとりのナザレを赤い点で、主要都市エルサレムを緑の点で示しました。イエスが育ったのはそのナザレの町であり、イエスが今、弟子たちとともに戻ってきたのも、イスラエルのはるか北にあるそのナザレの町でした。地元出身の少年が大人として故郷に戻るとき、何が起こるのかを読んでみましょう。

マルコの福音書 6章 1~6節

イエスはそこを去って郷里に行かれた。弟子たちもついて行った。2 安息日になって、イエスは会堂で教え始められた。それを聞いた多くの人々は驚いて言った。「この人は、こういうことをどこから得たのだろう。この人に与えられた知恵や、その手で行われるこのような力あるわざは、いったい何なのだろう。3 この人は大工ではないか。マリアの子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄ではないか。その妹たちも、ここで私たちと一緒にいるではないか。」こうして彼らはイエスにつまずいた。4 イエスは彼らに言われた。「預言者が敬われないのは、自分の郷里、親族、家族の間だけです。」5 それで、何人かの病人に手を置いて癒やされたほかは、そこでは、何も力あるわざを行うことができなかった。6 イエスは彼らの不信仰に驚かれた。それからイエスは、近くの村々を巡って教えられた。

この箇所で私たちが目にする最初の出来事は、イエスが故郷に帰ってくることです。イエスが故郷を訪れたこの聖書の記述を読むとき、私たちはこの町がどのような町であるかを理解する必要があります。大都市を思い浮かべてはいけません。これはとても小さな町です。当時のどの文献にも基本的に載っていませんし、イエスがそこで育っていなければ、その町はおそらく時の流れの中で失われていたでしょう。基本的には、60エーカー、243,000平米、約8万坪ほどの岩山の中腹に家が建ち並ぶ辺りな村でした。町全体でも住民の数は500人以下だったでしょう。このような小さな町では、誰もが互いのことを知っていたでしょう。ですから、イエスが故郷に到着したとき、そこには明らかにイエスを幼い頃から知り、いまでも彼を知っていると思われる彼の地上の家族ともつながりがある多くの人たちがいました。3節のこれらの言葉に注目して下さい。

この人は大工ではないか。マリアの子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄ではないか。その妹たちも、ここで私たちと一緒にいるではないか。

時に私たちは、聖書的なイエス観ではなく、あまりにもローマ・カトリックの影響を受けたイエス観を持っていることがあります。マリアの永久処女性に関するローマ・カトリックの教えの影響で、多くのクリスチャンはイエスの生い立ちがどれほど普通の人間であったかを理解していないようです。イエスには実際には異父兄弟姉妹である兄弟姉妹がいましたが、母、父、兄弟姉妹のいる普通の家庭でした。マリアとヨセフは、イエスが生まれた後も宗教的誓いをたてた独身生活者ではなかったのです。

ふたりは普通の結婚生活を送り、イエスのほかに少なくとも4人の男の子と姉妹をも、もうけていました。イエスは、ユダヤ人の男の子に期待されていたように、生業も学びました。父ヨセフの生業である大工を学んだのでした。しかし、ここで、イエスの話を聞いている人々が、ヨセフの名前を出していないことに気づいて下さい。これは、ペテロがマルコを通してこの記述を伝え

る際に意図的に行われたようです。この出来事について書かれている他の2つ福音書の箇所では、ヨセフについて言及されています。

マタイの福音書 13章55~56節 この人は大工の息子ではないか。母はマリアといい、弟たちはヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではないか。56 妹たちもみな私たちと一緒にいるではないか。それなら、この人はこれらのものをみな、どこから得たのだろう。」

そして、ルカ書4章22節で、聞いていた人たちがこう聞きました。**ルカの福音書 4章22節** 人々はみなイエスをほめ、その口から出て来る恵みのことばに驚いて、「この人はヨセフの子ではないか」と言った。

では、なぜヨセフを省くのでしょうか。その答えは、この出来事の第二部分、つまりイエスの教えに対する人々の反応にあります。

2節から、**2 安息日になって、イエスは会堂で教え始められた。それを聞いた多くの人々は驚いて言った。「この人は、こういうことをどこから得たのだろう。」**

マルコによる福音書1章22節を振り返ってみると、イエスの言葉を聞いた人々の反応が同じです。**マルコの福音書 1章22節** 人々はその教えに驚いた。イエスが、律法学者たちのようではなく、権威ある者として教えられたからである。これらは同じ言葉かもしれませんが、まったく異なる反応です。マルコ1章では、人々の驚きは肯定的なものでした。

人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようではなく、権威ある者としてお教えになったからである。

しかし、マルコによる福音書6章では、その驚きは否定的です。

なぜヨセフが省かれたのかに話を戻すと、それはイエスに対する彼らの反応と関係があります。通常のユダヤ人の習慣では、ある人を母親の子ではなく父親の子だと言います。そして、マタイ書とルカ書で見たように、確かにそのように答えた人がいました。しかし、相当数の聴衆がマリヤの子と呼んだようです。これは褒め言葉としてではなく、むしろ父親ではなく母親と言ったことによる侮辱の意味合いでした。2節の終わりから3節までを読むと、この拒絶の反応がはっきりと見て取れます。

「この人は、こういうことをどこから得たのだろう。この人に与えられた知恵や、その手で行われるこのような力あるわざは、いったい何なのだろう。3 この人は大工ではないか。マリアの子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄ではないか。その妹たちも、ここで私たちと一緒にいるではないか。」こうして彼らはイエスにつまずいた。

ナザレ人たちがイエスにつまずいたのは、彼が神の名によって彼らに何かを教えたり、奇跡を起こしたりする資格はないと信じていたからです。結局のところ、彼はただの大工であり、大工の息子なのでした。彼の言うことに耳を傾ける必要はないと考えたのです。

これは、今日のイエスに対する一部の人々の反応と似ていないでしょうか？イエスは哲学的に深い宗教体系や複雑な礼拝様式を作り上げたわけではありませんでした。形而上学的方法で自らをより高い霊的次元に置こうとしたわけでもありません。言い換えれば、彼らが福音のメッセージを拒絶するのは、私たちが礼拝しているのはより深い霊的修行と実践へと導いた人物ではなく、十字架上で死んだ人物だからなのです。イエスは多くの人々にとって十分に洗練されていなかったのです。

世界の主要な宗教の信仰と実践を見て下さい。例えば、仏教の教えを見てみましょう。仏教には5つの戒律があり、悟りに至る8つの道や修行の基礎となっています。数え切れないほど多くの偽りの神々が存在するヒンドゥー教には、信者のための宗教的な道があります。それは、真の生き方は5つの核となる原則にあり、5つの公的または政治的な"ヤマ"または誓いと、5つの個人的な誓いまたは"ニヤマ"で構成される10の規律に従うことによって実践されるというものです。

それらの複雑なシステムや他のあらゆる偽りの教えに反して、イエスはヨハネ11:25でこう述べています、**ヨハネの福音書 11章25節** イエスは彼女に言われた。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。これが福音の単純さです。イエスの宣べ伝えた罪からの悔い改めと、彼を信じるというシンプルなメッセージを、ナザレの人々は彼を

よく知っていたが、そのようなシンプルなメッセージに耳を傾けようとはしなかったのです。彼らが求めていたのは学者の宗教指導者であって、この普通の人ではなかったのです。

しかし最後に、この出来事の第三の部分であるイエスの反応も見ることができます。この前に福音記者のマルコは、群衆がイエスの権威に驚いていたことを語っていますが、今度はイエスが彼らの不信仰に驚かれています。6節にこう言っています、**イエスは彼らの不信仰に驚かれた。**イエスの二つ反応があります。まず4-5節はこう言っています。**「預言者が敬われないのは、自分の郷里、親族、家族の間だけです。」** 5 **それで、何人かの病人に手を置いて癒やされたほかは、そこでは、何も力あるわざを行うことができなかった。**彼は、私たちの多くが共感できる真実を述べています。家族のもとへ帰れば、どんなに重要な人物になったとしても、肩書きで呼ばれることはなく、子供の頃からのニックネームで呼ばれます。

母の教会には、私が80年代に小学生だった頃、学校や日曜学校、AWANAクラスでお世話になった人たちがいます。その人たちにとっては、私はいつまでたっても、ベンジー・ハワードなのです。天皇陛下が上皇上皇后であるご両親に会いに行くとき、ご両親はきっと「天皇陛下」とは呼ばず、生まれたときから呼んでいる名前と呼ばれているでしょう。そして、イエスへの親しみが問題なのではなく、イエスに対する信仰の欠如が本当の問題なのです。彼らはイエスを拒絶しました。ですから、霊的なことだけでなく、他のどの場所でも常に行っていた肉体的な奇跡さえも、イエスが行うのを見ることができなかったのです。しかし次に、イエスは6節の終わりで、ただご自分の道を歩み続け、地上での目的を果たすことによって、それに応えられたことを見る必要があります。

それからイエスは、近くの村々を巡って教えられた。

イエスのメッセージを携えて遣わされた私たちは人々の不信仰に惑わされたり、神に召されたことをやめるようなことがあってはならないのです。もちろん、これはイエスの場合であって、私たちの場合はそうとはいかないことがあります。あまりにも多くの場合、私たちはキリストを分かち合うときに拒絶されると、その拒絶のトラウマから証しせず黙ってしまうことがあります。イエスは徹底的に拒絶され、いずれ十字架にかけられ、殺されるということを知っていながら、それでも究極の拒絶に直面しました。

イエスは彼らの不信仰に驚かれた。 それでも、イエスの応えはただ進み続け、自分が何者であるかを人々に教え続け、罪を悔い改めてイエスを信じれば罪から救われるという福音を伝え続けることでした。この箇所からいくつかの結論を導き出そうと思いますが、この出来事から先に進む前に、イエスはなぜ彼らの不信仰のゆえに驚かれたのかを問う事は重要です。

イエスは神であり、彼らが信じないことを知っていたに違いありません。聖書の教えは、イエスが完全な神であると同時に完全な人間であることを明らかにしています。ナザレの町の人々は、イエスの完全に人間的な部分を見ていましたが、イエスの神性という部分は完全に拒絶し、見逃していました。実際私たちの人間の知力では理解しがたいことですが、福音書を読むと、イエスが完全な人間であることの一端は、神として行使できる完全な全知を進んで持たないことであるように思えることがあります。

全知とは、神がすべてを細部にわたって知っているという素質です。完全な神であり完全な人間であるイエスは、無限の神の心と有限の人間の心の両方を持っています。その有限の人間の心には、神の心が持っているはずの全知の知識はありません。ですから私たちは、キリストの二つの性質が何らかの形で、人間の心における彼の知識を自発的に制限していることを注意深く確認すべきです。もちろん、これからの章で見るように、キリストは来るべき死と復活について完全な知識を持っておられます。イエスが望めば全知を発揮することができるのは明らかです。

この箇所の第一のポイントは、救いは私たちがなす事ではないということです。誰が救われるのか、誰がイエスに従うようになるのか、誰も予測できないということです。ガダラの悪霊に取りつかれた男はイエスに従いました。しかし、イエスを一番よく知っていて、信じる機会がいくらでもあった人々は、彼を拒絶しました。救いは神の業であり、私たちの業ではありません。神が

誰を救うために選ばれたかは、神のみがご存じなのです。この場合、イエスでさえ、その情報を知るために神の知識を行使しなかった可能性があります。私たちは、イエスの弟子としての召命に忠実であり続け、神が私たちの人生に引き合わせてくださった人々にキリストのメッセージを伝え続けなければなりません。しかし、私たちが福音のメッセージを忠実に宣べ伝え続けるとき、この箇所には私たちが注意しなければならない2つの危険が存在します。この2つの危険は、どちらも今日の私たちの教会と生活に直接適用するものです。

一つは、イエスと福音に触れること自体が、イエス・キリストへの信仰を保証するものではないということです。実際、キリストに接するあまり、キリストから遠ざかってしまいそうになることも少なくありません。イースターやクリスマスが国民の祝祭日になっている国もあります。それはキリスト教が歴史的に尊重されていたり、国教であったりするからです。多くのクリスチャンの親が証言しているように、教会で神の御業を目の当たりにして育ちながら、自分の罪を心から悔い改めてイエスを救い主として信じることをしない子供たちがたくさんいます。キリスト教を何らかの公式な形で認めている国に生まれたり、赤ん坊のときに洗礼を受けたからといって救われるわけではないのと同じように、私たちの子供たちも、教会に来てイエスの話を聞いたからといってクリスチャンになるわけではありません。そして、マルコのこの箇所で提示されている最大の危険の一つは、イエスの周りに常にいても、イエスが宣べ伝えた福音や、イエスが来て死んでよみがえった理由-があなたの罪のためである事を完全に見逃してしまう可能性があるということです。

第二の危険は、ナザレの人々がイエス自身をどのように見ていたか、あるいはイエスをどのように見逃していたかにあります。ナザレの人々の問題は、イエスを大工としか見る事が出来なかったです。マリアの息子でしかなかったのです。村の子供たちの一人に過ぎず、町を離れて成長し、訪ねて戻ってきた。つまり、彼は平凡だったのです。彼らはイエスを一人の男として見ましたが、神の子イエスとして見ることはできなかったのです。もし彼らが神をもっと普通ではなく見ることができたなら、もしかしたら信じる事ができたかもしれません。そして、もしあなたがイエスをそのように見ているなら、あなたもイエスを信じないでしょう。あなたはイエスを、ただ生きてそして死んだ歴史上の人物としてしか考えていないかもしれなません。イエスを宗教的な教師、あるいは世界の偉大な宗教の創始者としてだけ思っているかもしれません。しかし、十字架の上で私たちの罪の代償を支払うために人間の肉体をもって来られた神ご自身としてイエスを見るまでは、あなたはイエスが誰であるかを見ることができず、あなたの人生は変わらず、あなたの罪は赦されないままなのです。私たちが救うために、何かに頼ることも、誰かに頼ることもできません。教会に出席しても救われません。両親がクリスチャンでも救われません。イエスのことをただ知っているだけでは救われません。自分の罪を認め、罪を悔い改め、イエス・キリストを主であり救い主として信頼すること以外に、救いはないのです。

祈りましょう。

Mark 6:1-6 Familiarity Breeds Contempt

There is an English phrase that is often used that is the title I chose for this sermon, “familiarity breeds contempt.” And in the events of our passage today, Jesus experiences this phenomenon where those who are most familiar with His life are the most skeptical of his identification as the Messiah and His ministry. We are starting Mark chapter 6 today, and we will look at verses 1-6 where we see this negative reaction to Jesus’s ministry. We need to know as we read this section which town it is talking about. In Matthew, we are told that Jesus grew up in a city called Nazareth. [Matthew 2:23](#) says, [And he went and lived in a city called Nazareth, so that what was spoken by the prophets might be fulfilled, that he would be called a Nazarene.](#) If you look on the screen, I marked Nazareth with the red dot up by the Sea of Galilee, also called the sea of Tiberias, and the major city of Jerusalem by a green dot. It was in that town of Nazareth that Jesus grew up, and it was that town of Nazareth in the far north of Israel that Jesus now returns to with his disciples. Let’s read what happens when the local boy returns home as a man.

[He went away from there and came to his hometown, and his disciples followed him.² And on the Sabbath he began to teach in the synagogue, and many who heard him were astonished, saying, “Where did this man get these things? What is the wisdom given to him? How are such mighty works done by his hands? ³Is not this the carpenter, the son of Mary and brother of James and Joses and Judas and Simon? And are not his sisters here with us?” And they took offense at him. ⁴And Jesus said to them, “A prophet is not without honor, except in his hometown and among his relatives and in his own household.” ⁵And he could do no mighty work there, except that he laid his hands on a few sick people and healed them. ⁶And he marveled because of their unbelief. And he went about among the villages teaching.](#)

The first event we see in this passage is that Jesus comes home. As we read this account in the Bible of Jesus’s visit to his hometown, we need to understand what this city is like. Don’t picture a big city. This is a tiny little town. It is basically unknown in any literature from that time, and if Jesus had not grown up there, it would have likely been lost to time. It was essentially an obscure village of houses basically built into about sixty acres of rocky hillside. There were likely only 500 or less people that lived in the entire city. In a town this small, everyone would have known everyone else. So when Jesus arrives back home, it is to many people who clearly have known him from his earliest childhood, and seem to still know and be connected with his earthly family. Notice their words in verse 3, [“Is not this the carpenter, the son of Mary and brother of James and Joses and Judas and Simon? And are not his sisters here with us?”](#) Sometimes we have a far too Roman Catholic influenced view of Jesus rather than a Biblical view of Jesus. Due to the influence of Roman Catholic teaching on the perpetual virginity of Mary, I think many Christians fail to realize just how normally human Jesus’s upbringing was. He had brothers and sisters, actually half brothers and sisters, but a normal family with mom, dad and siblings. Mary and Joseph did not remain celibate after Jesus was born. They had a normal marriage relationship that produced at least 4 boys in addition to Jesus and sisters as well. Jesus even learned a trade as would have been expected of Jewish boys. He learned the trade of his father Joseph, that of a carpenter. But notice here in their words that the people hearing Jesus leave Joseph out. This seems to be intentional in how Peter shares this account through Mark. In the two other places in the gospels where we read about this event, Joseph is mentioned. [Matthew 13:55-56](#) says, [Is not this the carpenter's son? Is not his mother called Mary? And are not his brothers](#)

James and Joseph and Simon and Judas? 56 And are not all his sisters with us? And in Luke 4:22 the listeners ask, “Is not this Joseph's son?” So why leave out Joseph here?

The answer lies in the second part of this event, which is **the people’s reaction to Jesus’s teaching**. Verse 2 begins, **And on the Sabbath he began to teach in the synagogue, and many who heard him were astonished**... When we look back at Mark 1:22, we see the same response by those hearing Jesus. **22 And they were astonished at his teaching, for he taught them as one who had authority, and not as the scribes.** These may be the same words, but they are two very different responses. In Mark 1, the people’s astonishment was in a positive way. **“Look how incredibly powerful this teaching is that is different than our religious leaders!”** But here in Mark 6, the astonishment is negative. **“Who is this guy who thinks he has the authority to teach us?”** Going back to why Joseph was left out, it is connected to their response to Jesus. In normal Jewish practice, you would say someone was the son of their father, not their mother. And indeed as we saw in Matthew and Luke some no doubt responded in that way. But it seems like a significant number of listeners called him the son of Mary, which was not intended as a compliment but actually rather an insult by saying his mother instead of his father. When we read the end of verse 2, into verse 3, we see this response of rejection clearly. **“Where did this man get these things? What is the wisdom given to him? How are such mighty works done by his hands? ³Is not this the carpenter, the son of Mary and brother of James and Joses and Judas and Simon? And are not his sisters here with us?” And they took offense at him.** The Nazarenes were actually offended at his teaching because they believed him to be unqualified to teach them anything or to even do miracles in God’s name. After all, he is just a carpenter and the son of a carpenter. We don’t need to listen to him.

Isn’t this similar to the response some people have to Jesus today? Jesus didn’t create a philosophically deep religious system and intricate patterns of worship. He didn’t try to put himself on a higher spiritual plane in some metaphysical way. In other words they reject the message of the gospel because we worship a man who died on a cross, rather than a man who led us to deeper spiritual practices. Jesus is not sophisticated enough for many people. Look at the beliefs and practices of most major world religions. Take, for example, the requirements of Buddhism. There are 5 precepts, which form the basis for the 8 fold path or practices that lead to enlightenment. Hinduism with its untold thousands of false gods has a religious path for followers that says the true way of life is found in 5 core principles and lived out by following a set of 10 disciplines made up of 5 public or political “yamas” or vows and 5 personal vows or “niyamas.” Contrary to those involved systems and every other false teaching, Jesus says in **John 11:25, “I am the resurrection and the life. Whoever believes in me, though he die, yet shall he live...”** This is the simplicity of the gospel. It is the simple message of repentance from sin and belief in him that he preached to these people at Nazareth who knew him well, but would not listen to such a simple message. They wanted the scholarly rabbis, not this common man.

But then finally, we also see the third part of this event which is Jesus’s response. Before this, we have been told by the writer Mark that crowds were amazed at Jesus’s authority, but now Jesus is amazed at their disbelief. Verse 6 says, **⁶And he marveled because of their unbelief.** There are two reactions Jesus has. First, verses 4-5 tell us, **⁴And Jesus said to them, “A prophet is not without honor, except in his hometown and**

among his relatives and in his own household.”⁵ And he could do no mighty work there, except that he laid his hands on a few sick people and healed them. He simply states a truth I think most of us can relate to. No matter how important you get to be as a person when you return home to your family, they are not calling you by your title, they are calling you by your nickname you have had since you were a child. There are people at my mom’s church who had me in their school, Sunday School and AWANA classes when I was in Elementary school in the 80’s, and to those folks I will always be Benjie Howard. When his majesty the Emperor Naruhito goes to see his parents, the Emperor Emeritus, I’m certain they don’t call him, TENNOU HEIKA (天皇陛下), but rather his name they have called him from birth. And that familiarity with Jesus is not the real problem, but their lack of faith in him. They rejected him, so they failed to see him do any work, not just spiritually, but even the physical miracles that he was doing regularly everywhere else.

But secondly, we need to see that Jesus responded at the end of verse 6 by simply continuing on his way and fulfilling the purpose he had on earth. And he went about among the villages teaching. We should not let the unbelief of those we are sent to with the message of Jesus deter us or cause us to quit doing what God has called us to do. Now of course this is Jesus, and we are not. But too many times, we are rejected when we share Christ and it keeps us silent at other times because we don’t like the experience of that rejection. Jesus was soundly rejected, and he still faced the ultimate rejection of being placed on a cross and murdered which he knew would eventually come. And yet, his response was simply to keep going, to keep teaching the people about who he was and preaching the good news that repenting of sins and believing in Him would save them from their sins. I want to draw some conclusions from this passage, but before we move on from what happens in the events, it is important to ask why would Jesus be marveling because of their unbelief? Jesus was God, surely he knew they would not believe. The teaching of Scripture is clear that Jesus is both fully God, but also fully human. The people in the town of Nazareth saw the fully human part, but completely rejected and missed the part that was his divinity. While it is really incomprehensible to our human understanding, it does seem at times in the gospels that part of Jesus being fully human is that he willingly does not have full omniscience that he can exercise as God. Omniscience is the attribute of God as knowing everything in all its details. Jesus as fully divine and fully human has both an infinite divine mind and a finite, human mind. That finite human mind does not have the omniscient knowledge that his divine mind would have. So, we must carefully affirm that in some way the two natures of Christ voluntarily limit his knowledge in his human mind. Of course, he has complete knowledge of his coming death and resurrection as we will see in coming chapters, so clearly Jesus exercises omniscience when he desires to.

The primary point in this passage is that salvation is not our doing, so no one can predict who will be saved, who will become a follower of Jesus. The demon possessed man in Gadara became a follower of Jesus, but those who knew him best and had every opportunity to believe rejected him. Salvation is God’s work, not ours, and only he knows who he has chosen to save. It seems possible that even Jesus did not exercise his divine knowledge to know that information in this case. We must simply continue to be faithful to our calling as disciples of Jesus to share Christ’s message with those God brings into our lives, and not be stopped in that by others rejection of our message. But as we continue in that faithfulness to preach the message of the gospel, there are two dangers

that present themselves in this passage that we need to be aware of. Both of these dangers have direct application to our church and life today. **One is that exposure to Jesus and the gospel are not in themselves a guarantee of faith in Jesus Christ.** In fact, many times, it can seem that people are almost driven away from Christ by so much exposure to him. There are cultures in some countries where Easter and Christmas are national holidays because of a historic respect or even a state religion of Christianity, and yet there is as much lostness and lack of true Christian faith in Jesus Christ as anywhere else in the world. As many Christian parents can attest, there are plenty of children who grow up in church seeing God's work first hand, and yet never truly repent of their sin and believe in Jesus as their Savior. Just as being born in a country that recognizes Christianity in some sort of official way, or being baptized as a baby, does not save you, our children are not Christians because they come to church and hear about Jesus. And one of the biggest dangers presented in this passage in Mark is that you can be around Jesus a lot, and completely miss the gospel that he preached and the reason he came and died and rose – for your sin.

The second danger lies in how the people of Nazareth viewed Jesus himself or maybe it is better to say, how they missed truly seeing Jesus. The problem with the people of Nazareth is that all they could see of Jesus was that he was ONLY a carpenter. He was ONLY a son of Mary. He was just another of the village kids who grew up left town and returned for a visit. In other words, he was ordinary. They saw him as Jesus, the man, but failed to see him as Jesus, the Son of God. If they could have seen God in a less ordinary way, perhaps they would believe. And if that is how you see Jesus, you will not believe in him either. You may think of Jesus as ONLY a historic figure who lived and died. You may think of Jesus as ONLY a religious teacher or founder of one of the world's great religion. But until you see him as God himself, come in human flesh to pay the price for our sin on the cross, you will never see Jesus for who he is, and your life will remain unchanged and your sin will remain unforgiven. We cannot rely on anything or anyone else to save us. Your attendance at church won't save you. Your parents being Christians will not save you. Simply knowing about Jesus will not save you. There is no salvation outside of recognizing your sin, repenting of your sin and trusting in Jesus Christ as your Lord and Savior. Let's pray.